

## 第3章 計画策定後の新たな取り組み

ここでは、『健康松戸 21Ⅲ』をより推進するために新たな取り組みとして計画策定後に実施した「まつど健康マイレージ」、「健康松戸 21 応援団」と、法改正等で新たに計画を策定するなど取り組むこととなった「糖尿病対策」、「自殺対策」について記載します。

### 1 まつど健康マイレージ

生活習慣病の予防のためには、市民一人ひとりが積極的に健康づくりに取り組むことが必要です。本事業は、市民の健康づくりのきっかけづくりや励みになり、健康づくりを楽しみながら継続的に取り組むための支援策として、平成 28 年 7 月 1 日からスタートしました。

#### 事業目的

市民等への健康意識の啓発や健康増進を促し、健康づくりの「きっかけ」「定着」「継続」を図ります。

#### 事業概要

各種健（検）診の受診をはじめ、健康に配慮した店舗の利用や健康に関連した事業・イベント等へ参加した 20 歳以上の市民へマイルを付与します。一定マイル以上取得し応募した市民へ抽選で特典を提供するほか、事業終了までマイルを累積管理し、規定マイルに達した際に表彰を行う事業です。

#### 事業開始年月日

平成 28 年 7 月 1 日

#### 目標

- ① 健康に関連した事業・イベント等へ参加して健康づくりに取り組む市民が増える。
- ② 多くの市内企業や団体等が、事業を通して市民の健康づくりを支援することができる。

## これまでの主な取り組みと実績

### ① まつど健康マイレージ

	取り組み	実績
第1期 (平成28年7月～ 平成29年2月)	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業の啓発活動 パンフレット、市ホームページ、 広報、町会回覧、公用車ラッピング</li> <li>マイル付与協力団体の拡充</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>応募件数：3,331件</li> <li>応募人数：2,211人</li> <li>事業がきっかけで特定健診・がん検診を受けた割合：44.1%</li> </ul>
第2期 (平成29年3月～ 平成30年1月)	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業拡大に向けた町会自治会説明会の開催</li> <li>事業の啓発活動</li> <li>マイル付与協力団体の拡充</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>応募件数：8,253件</li> <li>応募人数：4,043人 (新規：2,781人)</li> <li>事業がきっかけで特定健診・がん検診を受けた割合：58.0%</li> </ul>
第3期 (平成30年2月～ 12月)	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業の啓発活動</li> <li>応募ボックス設置場所の拡大</li> <li>マイル付与協力団体の拡充</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>応募件数：10,390件</li> <li>応募人数：4,601人 (新規：2,228人)</li> <li>事業がきっかけで特定健診・がん検診を受けた割合：66.6%</li> </ul>

### ② マイル付与協力団体 入団状況

	実績
平成28年度	・マイル付与協力団体数：780団体
平成29年度	・マイル付与協力団体数：891団体（新規：111団体）
平成30年度	・マイル付与協力団体数：937団体（新規：46団体） 2月末現在

## 現状と課題

- ① 応募件数・応募者数は年々増加しているものの、市民調査による事業の認知度は26.1%でした（P33 図表38）。健康づくりに無関心であったり、関心があっても実践には結びついていない市民に対する健康づくりのきっかけとなるよう、本事業の啓発活動を行っていく必要があります。
- ② 年代別応募者割合では、60歳以上が第1期64.7%、第2期70.6%と半数以上を占めています。今後は、事業に参加しやすい環境づくりを進めるとともに、若い世代の健康づくりも支援する必要があります。

### 今後の主な取り組み

- ターゲット
  - ・ 成年期から壮年期
  - ・ 健康づくり無関心層
  
- 今後の方向性
  - ・ 事業の普及啓発
  - ・ 若い世代が事業に参加しやすい仕組みづくり
  - ・ マイル付与協力団体（特に身体活動・運動に取り組む団体）の拡充

### 今後5年間の主な取り組み計画

今後の方向性	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度	平成35年度 (評価年)
事業の普及啓発	様々な広報媒体を活用した事業の啓発				
事業に参加しやすい 仕組みづくり	参加しやすい 仕組みの検討	参加しやすい仕組みの実行			
マイル付与協力団体 の拡充	企業・団体へのマイル付与協力団体への登録勧奨				

### 今後5年間の目標値

	現状値 (平成29年)	目標値 (平成35年)	目標値の根拠
応募用紙内アンケートにおける 事業がきっかけで特定健診・がん 検診を受けた割合	56.6%	70.0%	現状値を基に 独自に設定
マイル付与団体数	891 団体	1,050 団体	現状値を基に 独自に設定
まつど健康マイレージ事業の 認知度	26.1%	35.0%	現状値を基に 独自に設定

## 2 健康松戸 21 応援団

市民が健康づくりに継続して取り組める環境づくりのため、民間企業・市民団体等で構成される「健康松戸 21 応援団（以下、応援団）」を平成 28 年 3 月に発足しました。それぞれの特性を活かして、市民の健康づくりを応援しています。

### 事業目的

『健康松戸 21Ⅲ』の取り組みの方向性の一つである「みんなで取り組む地域環境づくり」を推進するために、民間企業や市民団体等の力を活かした協働の取り組みをすすめ、市民の健康づくりのための連携体制の構築及び強化を図ることを目的としています。

### 事業概要

応援団は、市民の健康づくりを応援する民間企業や市民団体等で構成されています。

応援団は、『健康松戸 21Ⅲ』の理念を共有し、日々の活動や営業内容をもって市民の健康づくりに寄与しています。また、多くの応援団がまつど健康マイレージに協賛品の提供やマイル付与を通して協力しています。

### 事業開始年月日

平成 28 年 3 月 1 日

### 目標

- ① 市民が、応援団の活動を知ることができる。
- ② 多くの民間企業や市民団体等が応援団に入団し、市民の健康づくりを支援することができる。
- ③ 応援団が、やりがいを持ち、応援団としての活動が継続できる。
- ④ 応援団の構成員が、自ら健康づくりに取り組むことができる。

## これまでの主な取り組みと実績

	取り組み	実績
平成 28 年度	・ 応援団発足式開催	・ 24 団体参加
	・ ファイザー株式会社との連携協定締結	・ 禁煙外来マップ作成支援
	・ 第一生命保険株式会社との連携協定締結	・ 健康ライフまつど発行開始
	・ 応援団フェス開催	・ 9 団体出展
	・ 応援団の拡大	・ 応援団数：112 団体
平成 29 年度	・ 大塚製菓株式会社との連携協定締結	
	・ 応援団フェス開催	・ 10 団体出展
	・ 応援団の拡大	・ 応援団数：175 団体 (新規：63 団体)
平成 30 年度	・ 応援団フェス開催	・ 14 団体出展
	・ まつど健康マイレージ特集号において応援団を公募	・ 応援団数：198 団体 (新規：25 団体) 2 月末現在

## 現状と課題

- ① 市民調査の結果、市民の応援団に対する認知度は 3.6%と低い状況でした（P33 図表 38）。市民が応援団による健康づくり活動に参加しやすく、応援団がやりがいを持って活動を継続するために、応援団の周知啓発の強化が必要です。
- ② 現在、市と応援団、応援団間の連携や協働による取り組みが少ない状況があります。市民の健康づくりをさらに推進するために、民間企業、医療関係団体、市民団体等、それぞれの応援団が持つ特色（強み）を活かし、市と応援団、また応援団間の連携を強化する必要があります。
- ③ 市民の健康づくりを応援する応援団の構成員が、自らの健康づくりにも積極的に取り組むことは、市民の健康づくりの機運を高めることにも寄与すると考えます。市は、応援団の構成員が自らの健康づくりに積極的に取り組めるように、サービスの情報提供などの支援を行う必要があります。

## 今後の取り組み

- ターゲット
  - ・ 全応援団（新規入団団体、連携協定団体、応援団フェス出展団体等）
  
- 今後の方向性
  - ・ 応援団との連携強化
  - ・ 応援団の仕組みの再検討
  - ・ 市民への応援団の周知
  - ・ 応援団の健康づくりの推進

## 今後5年間の主な取り組み計画

今後の方向性	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度	平成35年度 (評価年)
応援団との連携強化	健康ライフまつどの発行、応援団フェス、松戸まつりへのブース出展				
応援団の仕組みの再検討	仕組みの検討	応援団実施要綱の変更	新たな仕組みでの実施		
市民への応援団の周知	様々な広報媒体を活用した啓発活動の実施				
応援団の健康づくりの推進	応援団への健康教育の実施や健（検）診受診勧奨				

## 今後5年間の目標値

	現状値 (平成29年)	目標値 (平成35年)	目標値の根拠
応援団の認知度	3.6%	20.0%	現状値を基に独自に設定
応援団入団数	175 団体	200 団体	現状値を基に独自に設定
応援団との協働事業開催数	年間8回※	20回	現状値を基に独自に設定
応援団アンケートで「健康づくりの関心が高まった」と回答した割合	55.3%	70.0%	現状値を基に独自に設定

※健康ライフまつどの発行（4回）、松戸まつりや応援団フェスへのブース出展、受動喫煙防止講演会、世界禁煙デーイベント

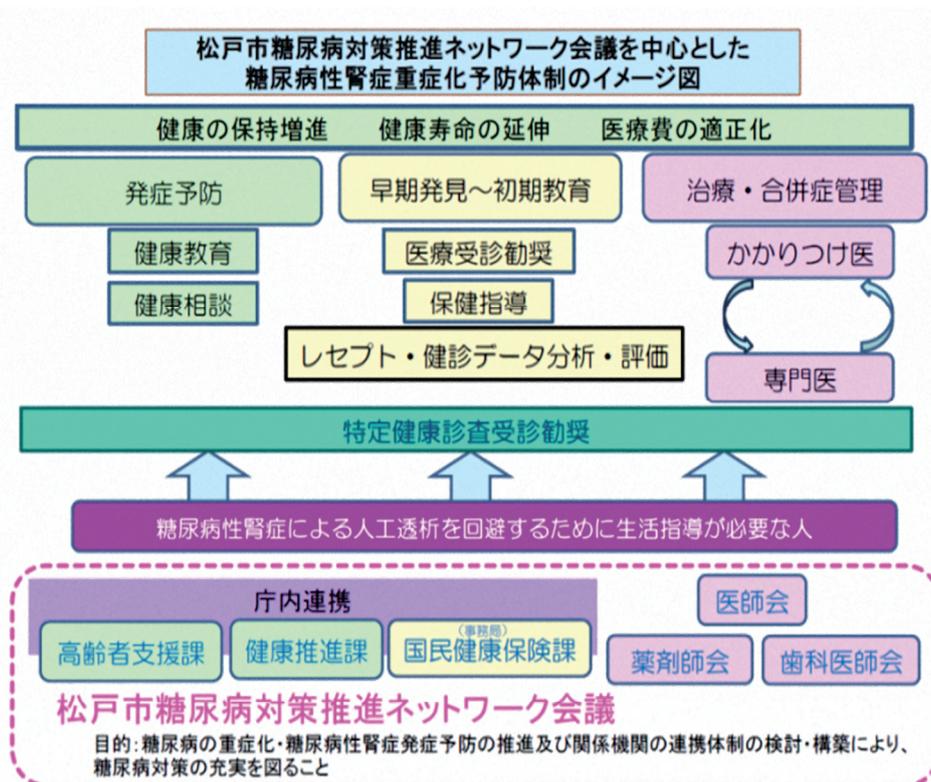
### 3 糖尿病対策

本市の特定健康診査の結果において、国や千葉県と比べて、血糖やHbA1cの有所見者の割合が高く増加傾向にあります（P21 図表 25・26）。また、新規糖尿病性腎症患者数や人工透析患者数も国や千葉県に比べて多く、増加傾向にあります（P17 図表 17・18）。その反面、松戸市国民健康保険加入者における糖尿病患者数は、国や千葉県に比べ低い人数で推移しています（P16 図表 16）。

これらのことから、糖尿病の初期段階で適切な受診がされず、重症化に至っていることが考えられます。

また、国民健康保険疾病分類別医療費（細小分類）（P15 図表 15）は、慢性腎不全、糖尿病、高血圧症の順に高くなっています。糖尿病が重症化し慢性腎不全に陥った場合、人工透析の回避は難しく、人工透析には1人当たり年間約500万円の医療費がかかり、医療費増大の原因となっています。また、人工透析は患者・家族にとって身体的・精神的苦痛のみならず、行動の制限、金銭的支出など大きな負担がかかります。人工透析を減少させていくことは、市民一人ひとりの健康寿命の延伸と共に医療費の適正化に向けて重要な鍵となります。

本市では平成30年度から、松戸市糖尿病対策推進ネットワーク会議を設置し、医師会・歯科医師会・薬剤師会等の関係団体との連携体制の強化、住民への普及啓発の推進、地域保健に関わる市役所内の関係部署と課題の共有、連携の推進を図りながら、『第2期データヘルス計画』に基づき、糖尿病対策の充実を図ることを目的に取り組んでいます。



## 4 自殺対策

平成 28 年 4 月の自殺対策基本法改正に基づき、本市では、『松戸市自殺対策計画』を策定し、平成 31 年 4 月より推進します。「こころの健康づくり」分野及び「休養」分野の一部の事業及び評価は同計画において実施することとします。